

平成 28 年度「東北大学学校ボランティア」活動報告

澁谷 拓巳¹・藤倉 由佳¹・宮本 翔吾²・後藤 武俊³

¹ 東北大学教育学部

² 東北大学経済学部

³ 東北大学大学院教育学研究科

本稿は 2003（平成 15）年度より活動が続いている「東北大学学校ボランティア」事業（以下、学校ボランティア）の 2016（平成 28）年度の取り組みを報告するものである。

1. 「学校ボランティア」概要

1.1 実施体制

学校ボランティアは、東北大学大学院教育学研究科・教育ネットワークセンターの事業の一環として行っている取り組みであり、同研究科の後藤武俊准教授を顧問とした事務局を設置して運営を行っている。事務局は学生で構成されており、現在の局員数は 3 名である。また、川内南キャンパスの文化系総合研究棟 6 階にある教育ネットワークセンターに学校ボランティアの窓口を設け、ここで様々な活動を行っている。

学校ボランティアの活動先は、仙台市内の小・中学校であり、仙台市教育委員会（以下、仙台市教委）の学生サポートスタッフ事業に対して学生のボランティア派遣を依頼した学校が主である。仙台市教委経由の依頼の場合、学生は仙台市教委の学生サポートスタッフ事業のスタッフとして正式登録され、ボランティア保険や一部遠方地域へのボランティアの際は交通費の補助を受けることが可能である。なお、本年度に関しては学生からの交通費の申請はなく、補助申請の件数は 0 であった。また、活動学生に対しては、年度末には仙台市教委より感謝状の贈呈が行われる。

1.2 ボランティア活動内容

学校ボランティアの活動内容は、学習指導補助、配慮を要する児童・生徒の指導補助、休み時間の話し相手、または課題活動の補助など、多岐にわたる。

1.3 活動学生の募集及び派遣方法

事務局では、学部問わず東北大学の全学生を対象として、3 種類の募集活動を行っている。

①教育ネットワークセンター前掲示板

②川内北キャンパス・マルチメディア教育研究棟 1 階 SLA サポート室前掲示板

③メーリングリスト

これらを通じて、仙台市教委から受けた活動依頼情報を学生に発信し、興味を持った学生がいた場合、その学生に事務局の支援体制やボランティア保険など活動に関する事前説明を行ったうえで、学生を派遣するというのが基本的な流れである。ただし、昨年度から継続して活動している学生に関しては、事前説明は省略している。

2. 2016（平成27）年度学校ボランティア活動状況

本節では、今年度のメーリングリスト登録者とボランティア活動学生の人数と所属構成を提示し、学校ボランティアと学生との関係について考察する。

2.1 学校ボランティアに関心を寄せる学生の特徴

はじめに、メーリングリストへ登録をしている学生と実際にボランティア活動を開始している学生の所属学部・研究科ごとの人数を表1と表2に示す。

表1 メーリングリスト登録者 学部構成

学部	人数	大学院	人数
教育学部	28	教育学研究科	3
農学部	2	法学研究科	1
理学部	7	理学研究科	1
文学部	4	文学研究科	1
法学部	2	工学研究科	1
経済学部	1	教育情報学教育部	2
工学部	2	合計	9
合計	46		

表2 活動者学部構成

学部	人数	大学院	人数
教育学部	4	教育学研究科	5
農学部	1	工学研究科	1
理学部	1	法学研究科	1
合計	6	理学研究科	0
		合計	7

特徴は、メーリングリストの登録を行う学生は学部、特に教育学部の学生が多いにもかかわらず、実際に活動を行う学生は大学院の学生のほうが多いという傾向である。登録者

も活動者もどちらも教育学部，教育学研究科の所属学生が多いのは，単に所属する学生が学校へのボランティアに興味を示しているからというだけでなく，学校ボランティアの広報が教育学部を基本として行われているからだと考えられる。

3. 活動者の声

ボランティアを行った学生に対しては、活動終了後に「活動報告書」の提出を依頼している。活動報告書は、あらかじめ事務局が作成した質問事項に学生がメールにて回答する形式である。活動報告書の質問事項は以下の通りである。

〇〇さん(学部生・大学院生)	
活動内容	活動内容(頻度・対象・行ったこと)はどのようなものでしたか？
感想	活動してみてもの感想をお聞かせください。
困った点	活動をしている中で、困った点などはありましたか？(子どもに対して、学校に対して、事務局に対してなど)
要望	事務局に今後行って欲しいことなどがありましたら、ご意見をお聞かせください。

なお、今回、報告書を本稿に記載するにあたって、学校名や一部表現を変更して表現している。また、感想や要望の中で注目すべき部分については下線で示している。

Aさん(大学院生)	
活動内容	毎週土曜日に中学1～3年生を対象として、学習指導(主に5教科)を行いました。研究室との兼ね合いで、実際には月1程度の参加となりました。
感想	<u>定期テスト直前の活動で、体調を崩してテスト前1週間分の授業を受けられなかった生徒がおり、理科と数学の教科書数十ページ分の理解が遅れていました。なるべく時間をかけ要点を教えたときには、大いに感謝され、大変やりがいを感じました。毎週、自分と会話することを楽しみに来てくれている生徒がおり、嬉しく思っています。</u> また、宮城教育大学など他大学の学生との交友も生まれました。

<p>困った点</p>	<p>中には一人で騒いだり、自分勝手な行動をしたりして周囲に迷惑をかける子どももいます。対応の仕方によって逆ギレしたり、むつけたりするので難しいと思いました。参加したボランティアは、他大学の知人から誘われたことによります。<u>活動開始にあたり、所定の手続きが必要と聞いて各所に問い合わせましたが、本学のボランティア担当の事務局にたどり着くまでが煩雑で、活動開始がやや遅れてしまいました。より広くボランティアの広報を行うことができればより活動者が増えるのではないのでしょうか。</u></p>
<p>要望</p>	<p>非常に有益な活動であると感じましたが、人材が常に不足気味のようなようです。もっと周知徹底して、さらに参加の手続きをより分かりやすくするなどして、より多くの学生が参加しやすい環境を作っていたらと思います。</p>

<p>Bさん(大学院生)</p>	
<p>活動内容</p>	<p>毎週水曜日の午後に、J中学校の特別支援教室に通い、授業時間中に子どもたちの学習の補助を行ったり、休み時間に一緒にオセロで遊んだり、最近あった出来事等についてお話ししたりしました。授業内容は主に家庭科（パッチワーク）や技術（パソコン）、美術でした。</p>
<p>感想</p>	<p><u>特別支援教室の子どもたちと関わってみて、自閉症やADHDのお子さんに対して、以前ほど、知らないことによる怖さや緊張は感じなくなってきました。自閉症の重いお子さんに対しては、ボランティアを始める前と比べて、お子さんの行動の裏に隠された気持ちや行動の意図を考えることが増え、表面的には同じ言葉を繰り返していても、その時々表現はできないけれど感じていることがあるということを実感しました。</u>やんちゃな男の子たちとの関わりは未だに苦手ですが、これからもっと仲良くなれたらいいと思っています。</p>
<p>困った点</p>	<p>子どもに対しては、癖のあるお子さんと関わる時にどうしようと思うことがあります。もっと先生方に相談したり、一緒にボランティアをしている学生に話したりしようと思います。</p>
<p>要望</p>	<p>いつもメーリス等でのお知らせをありがとうございます。活動報告会は、ぜひ参加してみたいと思います。絵本の読み聞かせや、勉</p>

	強会の情報等があれば知りたいと思っておりますが、自分で調べてみます。
--	------------------------------------

C さん(大学院生)	
活動内容	K 中で放課後の定期テスト勉強会で主に数学や英語を、2~3 か月に 1 回程度、中学 1~3 年生に教える。
感想	生徒たちが理解できるまで根気強く教えることを体験したり、どのように説明を変えれば生徒がより理解してくれるかなどを考えたりする良い機会になったと思う。
困った点	特になし
要望	特になし

D さん(大学院生)	
活動内容	L 中学校における中間試験・期末試験・夏休み等の長期休暇中の通常学級の生徒を対象とした学習支援活動。
感想	勉強の仕方を身につけられていない生徒が多くおり、このような学習支援活動は試験前以外にも継続的に行った方が効果的であると感じました。
困った点	特になし
要望	特になし

E さん(大学院生)	
活動内容	週 1 回、8 時半~12 時まで、普通学級に通学する発達障害を持つ小学生の学習支援。1 度だけ、特別支援学級の生徒補助も行った。
感想	とても勉強になる。 <u>障害児教育などは過去に学んだことはあったが、直接子どもと向き合うことで、マニュアルがあるわけでもなく、本当に個別対応だな、とつくづく感じる。自分の力不足や自分の力ではどうにもならないことなど、色々な事が見えてくる。まだまだ活動を始めたばかりであるが、信頼関係等を築くためには一緒に過ごす時間や努力の積み重ね何だろうなと強く感じる</u> ところである。
困った点	自分自身は困ってはいないが、対応している子どもと自分が接した際のフィードバックをあまりしていないので、した方がよいかどうかは悩むところ。フィードバックをしなくても、先生方は多忙

	だし、状況としてはわかっている気もするので、自分がもう少し長く続けることができたら考えればよい話かもしれない。
要望	特にありません。

Fさん(大学院生)	
活動内容	週1回、中学校の情緒学級
感想	貴重なケースに触れることができ大変勉強になっています。わずかな時間ではありますが、変化の瞬間を共有できるということは、学校ならではのものであると感じています。
困った点	活動中の負傷・器物の破損などについて、どこに連絡したらいいか、よくわかっていません。
要望	遠方の学校に行きやすくなったら活動の場が広がると感じております。

Gさん(学部生)	
活動内容	夏休み期間(二日間)にM中学校のサッカー部の夏休みの課題を解くことの手伝いおよびその場の監督を行いました。
感想	そのような場に行くのは初めてで、緊張しましたが、実際の中学校の現場に行くといろいろな学びがありました。特に、子供とのコミュニケーションの取り方に苦労しました。また、 <u>義務教育の中での教育なので、自発的に学習に取り組まない子も多くいるということ、そのような現場の厳しさを知りました。反対に生徒と触れ合う面白さも感じました。</u>
困った点	上述しましたが、子供とのコミュニケーションの取り方に苦労しました。分からないところについてこちら側から気づいて教える、聞きやすい環境づくりがなかなかうまく出来なかった気がします。
要望	特に大丈夫です。色々サポートしていただき、有難うございます！

Hさん(学部生)	
活動内容	毎週月曜日、小学2年生のクラスで授業補助。支援を必要とする子どもの隣に座って指導・支援するというかたち
感想	最初の数回は該当児童につきっきりになってしまい他児童とあま

	<p>り交流を持たずにいましたが、席替えなどをきっかけに広く関係を築くことができました。一緒に外遊びをしたり、音楽の授業のゲームに参加させてもらったり、楽しい時間を過ごすことができ良かったです。関係が広がり、さらに自分も慣れてくると、<u>該当児童以外にも授業のノートをうまく取れていない子どもなど気になる子どもは一人だけではないことが分かりました。</u>一人が騒ぎ出すとすぐに周りも共鳴しあって大騒ぎになってしまうことも幾度がありました。低学年の大変さのひとつかなと思いました。</p>
困った点	<p>物差しやハサミなど授業に関係ないものを取り出してその物を使うことに夢中になってしまうということがありました。そのときはまず口頭で注意してから、それでも止まらない時は物を取り上げるようにしていました。物を取り上げる時は、相手も全力で阻止してくるので子どもの物の取り合いのような感じになってしまい、最初はこんな実力行使のようなことをして大丈夫なのかと不安で、どれくらいまで対応すればいいか困りました。</p>
要望	特になし

I さん(学部生)	
活動内容	<p>N 中学校において男子・女子ソフトテニス部の技術指導を夏～秋にかけて週 1 回ほどのペースでしました。また、仙台市からは外れますが 0 市での学習会に学習支援ボランティアとして参加しました。こちらは夏休み・冬休みにそれぞれ 3 日間ずつ同市の中学生を対象に勉強会をひらき学習の補助をするものでした。</p>
感想	<p><u>部活動の技術指導においては、「学校の部活動」が抱える困難な面(未経験や高齢の顧問がどうやって練習メニューを工夫するべきか、また土日の休みを返上して練習参加していることの負担)について、実際に顧問の先生の姿を目の当たりにし、自分が学校教育を研究していくうえでの一助となる有意義な経験ができました。</u>また部活の生徒とも上手く打ち解けることができ、心身ともに楽しい経験にもなっています。</p>
困った点	<p>困ったことではないのですが、部活動の指導をしていた際に中学校の運営している“部活動”とは別に、同中学校の親の会が運営している“部活動”の方にも声をかけられ、そちらでも指導をしていました。顧問の先生とスポーツ保険の登録などについてもよく話</p>

	をして学校ボランティア加盟時の保険とは別に新たに親の会用のスポーツ保険にも加盟して参加しました。大きな怪我などもなく無事に活動できたので良かったのですが、一応この場でそういった事実があったことを報告させていただきます。
要望	仙台市を対象にしているボランティア活動のため、あまり贅沢は言えませんが今回の学習会のように0市等仙台市外からも募集があれば連絡をお願いしたいです。学習会に参加した中学生からのフィードバックにはもっと活動を増やしてほしいという声があったので、もし他にもそういった募集があれば考えてみたいと思います。

4. 平成28年度 学校ボランティア活動報告会・感謝状贈呈式

4.1. 活動報告会概要

学校ボランティア事務局では毎年、年度末に活動報告会を開催し、一年間の活動の総括の報告と、活動学生への感謝状贈呈の場を設けている。活動報告会は、事務局やこれから活動を考えている学生が、活動学生から直接意見を聞くことができる貴重な場となっている。

学生の参加者については、本年度の活動学生とメーリングリスト登録者へ参加を募ったほか、一般学生向けに参加を呼びかけるポスターを川内南キャンパスの文化系総合研究棟に掲示した。

本年度の下記の通り活動報告会を実施した。

【開催日時】 2017年2月10日 14:00~15:00

【場所】 東北大学川内南キャンパス・文科系総合研究棟306教室

- 【次第】
1. 開会のあいさつ
 2. 事務局顧問挨拶
 3. 仙台市教育委員会指導主事からの挨拶
 4. 活動者の声
 5. 感謝状贈呈
 6. 事務局から2016年度活動状況報告
 7. 閉会のあいさつ

【参加者】 学生8名、仙台市教委1名、事務局関係者3名、計12名

27年度、26年度ともに活動報告会に参加する学生が減少傾向にあることが課題となっ

ていた。しかし、今年度は活動者・メーリングリスト登録者のほかに、メーリングリストに登録していない学生の参加も多数あり、参加学生の増加が見られた。参加者増加の要因としては、各研究科の事務に依頼し、一般学生が目にしやすい場所にポスターを設置し早くから活動報告会について宣伝をしていたことが挙げられる。

また、一般学生が多く参加したことで、事務局からは活動報告に加え、急きょ学校ボランティアに関する説明会も実施した。活動報告会は、次年度の活動を考えている一般学生に参加してもらい疑問などを解決し実際に活動してもらうことを一つの目標としている。そのため、来年度からは学校ボランティアについての詳しい説明も活動報告会に組み込むことが必要ではないかと考えている。

5. 平成 28 年度 事務局活動状況と課題

5.1 活動状況

事務局の基本業務は主に、広報・活動者募集活動と活動者向け活動（各種手続きを含む）に分類される。

広報活動について、本年度は前期に開講された全学教職科目（主に一年生対象）の講義において、学校ボランティアの紹介を行った。4月、6月、10月には新規活動者を対象として説明会を行った。その際には、ネットワークセンターとの連携を図り、説明会の告知をネットワークセンターのホームページ上で行った。またおおよそ週1回のペースで短期の活動、長期休暇中の活動といったようにターゲットを絞った活動の案件をまとめてメーリングリストでの配信を行った。

広報活動以外には、ボランティアを希望する学生への支援業務も行っており、この活動が事務局の主な業務内容にあたる。学生からの活動希望を受けると、事務局員が活動希望学生に対してボランティア開始までの手続きのほか、交通費、保険に関する説明を行う。本来は年度初めの市教委による研究会への参加が活動開始の条件となっているが、随時の活動希望者に対しては、事務局員が仙台市教委による研修会を年一回受講し、研修会を代行して行っている。次に、派遣先となる学校側にボランティア内容の詳細を確認するほか、学生のニーズを踏まえた調整を行う。このような一連の手続きを経て晴れて活動開始となるが、活動開始後も随時、必要があれば連絡を取り合い、学生のサポートを行う。

さらに、仙台市の学生サポートスタッフ事業以外の業務として、富谷市教育委員会からの学校ボランティア募集を行った。こちらのボランティア募集に関しては、交通費、保険等の加入の説明は行わず、希望した学生と教育委員会の仲介を行った。

5.2 本年度の課題と来年度に向けて

ここでは、学校ボランティア事業とその運営を行う事務局が今後のよりよい発展を遂げるために、本年度、事務局として行ってきたことから得られた課題や来年度に向けての改

善点などを各自事務局員の視点から述べる。

澁谷

今年度の学校ボランティアの活動では昨年、一昨年と比べあまり新しい取り組みを行うことはなかった。もちろん、事務局員の話し合いでは新しい取り組み案や、自身で気が付いた改善箇所などはいくつもあった。しかし、実際に事務局員として活動している時間内でその取り組みや改善策を講じてみるとなると、活動時間や事務局の人数に限界があるようにも感じた。学生からのニーズは多様なもので、それすべてに対応することは難しい。それでも、ニーズを拾い集め、少しずつ新しい取り組みや改善を行っていくべきだと思う。

それから、今年度私に対応した活動学生には他学部の学生が非常に多かった。もちろん偶然ではあるが、対応をしている中で彼らがどういった理由で学校ボランティアに興味を持ったのかを知ることができた。将来教師を目指している人や、社会貢献をしたいと考えている人、子供が好きだからという人もいた。教育学部・研究科に限らず、学校ボランティアの活動に興味を持つ人は多いのだと改めて実感することができた。

藤倉

学校ボランティアでは、メーリングリストに登録している学生には多くの情報を発信できるが、メーリングリストに登録していない学生には全く情報が届かないという課題がある。常駐を行っている文化系総合研究棟のネットワークセンター前には、活動者募集校の情報などを掲示しているが、教育学部生以外には目につきにくい。フェイスブックやHPなどの活用方法をもう一度見直し、学校ボランティアに興味を持った学生が簡単に情報を手にいれられるように有効活用していく必要があると考える。また、学校ボランティアの存在についてより多くの人に認知してもらうために、ポスターのデザインや配置場所をさらに改善していく必要があると考える。

宮本

学校ボランティアの事務局として活動していると話しても事務局の存在を知らない人が多い。依然として学校ボランティアの学内の認知度はあまり高くない。メーリングリストの登録者は60名前後、実際の活動者は20名前後程度の数で例年推移している。

今年1年間の自分の活動を振り返ってみると、すでに学校ボランティアの存在を認知している人たちに対して働きかける機会が多かったような気がする。つまり、広報活動と活動者向け活動として後者に重点を置いていたということであるが、現状からして自分がより力を入れなくてはいけないのは前者だと感じた。これからは潜在的に学校ボランティア活動をしたいと考えている人たちも含めて、サポートしていく必要があるのではないかと考える。

後藤

事務局員の皆さんの 1 年間の活動に、まずは心から感謝いたします。毎週定期的に集まって話し合いをしながら進めていく活動のスタイルも、定着してきたと言えるのではないのでしょうか。

振り返れば、年度最初の説明会でほとんど人が集まらなかったことが思い浮かびます。そこから、様々な形で説明会を開催し、なんとか人を集めようと努力してきました。わずかな人数しか来ないことに慣れつつありましたが、最後の報告会で予想以上に多くの方に参加頂いたことで、この 1 年間の活動が少し報われた気がしました。宮本さんのデザインしたやわらかい雰囲気のパosterのおかげだったと思います。

反省点もたくさんありますが、様々な制約があるなかで十分以上の活動をしてきたと思います。今年度で事務局を離れる予定の藤倉さんと宮本さんには、改めて感謝を申し上げます。